

第4回 大和御所道路（橿原北IC～橿原高田IC）植栽検討委員会
議事概要

- 1 日 時 令和4年2月21日（月） 13：30～15：30
2 場 所 奈良国道事務所 4階会議室
3 出席者

委員長	京都女子大学名誉教授	槇村 久子
	ヴィジュアルデザイナー	岩井 珠恵
	橿原市 まちづくり部 部長	川田 茂人
	近畿地方整備局 奈良国道事務所 副所長	宮井 達也

欠 席

	奈良県立大学 教授	井原 縁
	奈良県 県土マネジメント部 道路建設課 課長	六車 憲雄
	奈良県 水循環・森林・景観環境部 環境政策課 課長	大東 宏幸

4 議 事

- 1) 資料1_第3回植栽検討委員会の振り返り（意見の確認）、資料2_ワークショップ結果の報告について

- ・落葉樹だけでなく、常緑樹も葉は生まれ変わるため、落葉するものである。常緑樹にすることで清掃が不要となるわけではないため、その点は十分に理解しておく必要がある。
- ・イチヨウは、季節感を感じることができる非常によい高木であるが、街路樹ではなく、公園や広場で植える方が地域住民の方々に楽しんでもらえると思う。管理を含めて、道路空間に適した高木を植えてほしい。
- ・ナツツバキやハナミズキは、非常にきれいであるが、水枯れを起こしやすく、十分な散水が行われない街路樹での生育が難しい樹種であるため、植える樹種を選定する際には留意すべきである。

- 4) 資料3_第3回植栽委員会での意見と対応方針、資料4_植栽整備方針書（案）、資料5_各委員からの意見と対応方針（案）、資料6_道路植栽整備方針書概要版リーフレットについて

○植栽整備方針書（案）

- ・高架区間のイメージパースは、橋脚の形状や桁の位置を正確に表現すべきである。一般の方は、イメージパース等の絵を見た上で文章を読むことが多いため、こうしたイメージパースの正確性は重要である。
- ・上位・関連計画の整理を「2. 事業の概要」へ移動したことで、全体の流れが分かりやすくなった。
- ・読みやすくするのであれば、既に現況植栽帯内の樹木も大部分が伐採されているため、過去の経緯にあたる部分を全て参考資料にしてもよい。本編全体に渡って未来のことが書かれている方が読みやすいと思う。
- ・植栽整備方針書の流れとして、上位関連計画等の記載が必要であるなら、分量が多いと読み

づらくなるため、本編に記載する内容は最小限に留める方がよい。

- ・上位・関連計画の内容は、本編には基本理念及び基本方針のみを示し、候補樹種や配植方針を参考資料に移動させること。
- ・道路植栽の多くは、それぞれの樹形に配慮した剪定が行われていないため、その樹種である意味をなしていない印象を受ける。配植の考え方の中では樹形への配慮が示されているが、基本方針に「維持管理の省力化に資する植栽の整備」とあり、これだけをみると、樹形に配慮した維持管理が行われない懸念があるため、基本方針においても、樹形にも配慮した維持管理が必要である旨を記載した方がよい。
- ・美しい樹形を形成するため、そして、余分な維持管理をしないという意味でも密植を避けることが一番重要である。そのため、適切な維持管理の実現に向けて、密植を避けて健康な樹木の育成を目指す等の表現を追加するのもよい。
- ・基本理念の“大路”は、誰もが読めるように、ルビを振った方がよい。

○道路植栽整備方針書植栽整備方針書概要版リーフレット

- ・リーフレットは、文字数を減らした方がよい。
- ・着色断面図の斜面部の低木は、実際のイメージに近い表現に修正すること。また、着色断面図を全体的にもう少し分かりやすくした方がよい。
- ・このリーフレットより内容を減らした子ども版のリーフレットを作成すると、普段利用している道路が、将来、素敵な道路になることを子ども達にも広報できてよい。
- ・伐採樹木を輪切りにして、工作の材料として小学校等に提供すればよい。その際に、子ども版リーフレットも配布するとよい。

以上